穂学

令和６年度　広州日本人学校
学校だより　No.7
令和６年１０月１７日
発行責任者　校長　大久　耕

前期の教育活動について（保護者アンケートから）

前期の保護者アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。結果を集計，分析し，後期の教育活動に生かしてまいりたいと思います。（数値は，ＡまたはＢだった回答の割合）

（1）自ら学ぶ子の育成		R5前期	R5後期	R6前期
1	学校は基礎的･基本的な学力の定着を図っている。	96.8	95.2	98.7
2	学校は，自分の考えを発信する力をつけるための工夫を行っている。	95.8	94.4	94.1
3	学校は話し合い活動や，作品発表会などの工夫した指導を積極的に取り入れている。	98.6	95.6	96.2
4	学校は家庭学習の推奨や，その指導の工夫を積極的にしている。	91.7	88.0	87.4
5	学校は読書を推奨している。	86	83.7	80.8
6	お子さんは学校の授業は分かりやすいと言っている。	89.5	85.1	88.3

この項目では，「基礎的・基本的な学力の定着」に高い評価をいただいた一方，「読書を推奨」において，工夫が必要とのご意見となっています。また，家庭学習についても数値が下降しております。ICT を活用しながら，「デジタル図書」「Qubena」（AI ドリル）を導入することで，個別の対応を図ってまいりたいと思います。

（2）個性豊かな子の育成		R5前期	R5後期	R6前期
7	学校全体に活気があり，子ども達が生き生きと活動している。	99.1	95.2	96.2
8	学校は一人一人の個性を大切にし，伸ばそうとしている。	94.9	90.7	92.1
9	学校は子どもたちの夢を大切にし，将来を見通した教育をしている。	95.3	86.6	85.8
10	学校はお子さんの能力や努力を適切･公平に評価している。	96.2	94.8	92.1
11	学校は命の大切さや人権を尊重する意識を指導している。	94.8	93.1	88.3
12	学校は児童生徒の個性や良さを伸ばすための行事などの工夫を行っている。（音楽発表会，朝集会，委員会活動，クラブ活動等）	95.9	94.4	95.4

「将来を見通した教育」と「命の大切さや人権」について，やや低い数値となりました。体験的な活動や商工会の企業様の協力などを取り入れながら，キャリア教育の充実を図っていきたいと思います。また，特別の教科「道徳」を中心として，命について考える授業を取り入れていくとともに，人権週間期間等において，全校で人権について考え，意識を高められるように努めてまいります。

（3）国際社会に生きる生きる子の育成		R5前期	R5後期	R6前期
13	学校は進んであいさつをする態度を育てている。	96.8	96.8	90.4
14	学校は適切な言語環境を育てるため，丁寧な言葉遣いの指導をしている。	96.7	96.7	87.4
15	学校は，児童生徒の指導において大型提示装置（プロジェクター，電子黒板）やタブレット端末等のICTを活用した授業の工夫を行っている。	95.8	98.6	95.0
16	学校は英語や中国語指導，異文化交流などを通して国際性を育てている。	94.8	95.8	96.7
17	学校はねばり強く最後まで頑張ることのできる児童生徒の育成をしている。	95.9	94.8	87.9

ここでは，「14　丁寧な言葉遣い」について，厳しい評価をいただきました。大人の言葉遣いが，子供たちの言語環境に大きな影響を与えることを十分に認識するとともに，職員間で確認を行い，「どんな時も，誰に対しても，正しい言葉遣いをする」ことを徹底してまいりたいと思います。

（4）健康・体力・安全・その他		R5前期	R5後期	R6前期
18	学校は児童生徒の体力の育成の為，各種取り組みをしている。	84.3	84.3	76.6
19	学校は校内の衛生面や感染対策等に気を付け，健康な環境づくりをしている。	95.4	95.4	92.9
20	学校は校内の安全点検・整備を行い，安心安全な環境づくりをしている。	94.9	94.9	92.5
21	学校は教室内の掲示物やロッカーの整理整頓に努め，学習環境を整えている。	98.1	98.1	92.9
22	学校はいじめの未然防止，早期発見・早期解決に努め，いじめを見逃さない学校づくりに取り組んでいる。	92.2	92.2	86.2
23	学校は児童生徒及び保護者からの相談に適切に応じている。	96.2	96.2	94.1
24	学校は保護者を学校に迎え入れる雰囲気をつくっている。	95.4	95.4	97.1
25	学校は授業参観及び懇談会，通信，ホームページ，ロイロノート等を通して，教育方針や学校，子どもの様子を保護者に伝えている。	96.8	96.8	95.0

子供たちの体力向上に向けた取組は，保護者，教師，児童生徒ともに課題として挙げています。今年度は，例年よりも気温が高く暑い日と天候不順による荒天の日が多くあり，思い切り体を動かす機会が取れなかったこともあります。これらのことを想定しながら，授業以外の部分でも子供たちが運動に親しみ，体力の向上が図れるように，現在，指導内容の工夫に取り組んでいます。

いじめ防止に向けて，生活アンケート，個別面談等を定期的に取り入れております。子供たちの声を聞き洩らさないように努めてまいります。

（５）その他（行事等アンケートの自由記述から）

① 「音楽発表会」について

- ご意見として子供たちへの励ましを大変多くいただきました。ありがとうございました。
- ２部制にして，座席の入替えを行いましたが，学年ごとの入替えを希望する意見もございました。また，客席とステージの高さの関係から，子供たちの表情が見えにくいとの声もありました。子供たちの移動時間等も考慮しながら，より多くの保護者の方に子供たちの様子をしっかりと見ていただけるよう次年度の計画の中に生かしてまいります。
- 歌の音域など，子供たちの発達から難しいものもあったのではないとのご意見がございました。選曲には十分配慮しておりますが，今一度子供たちの力がより発揮でいるように，併せて技能の向上も図れるように準備や指導を進めて参ります。
- 特別楽器や伴奏者，指揮者の決め方など，子供たちが納得できるような配慮が足りなかったのではないかとのご意見をいただきました。オーディションに向けての準備期間の設定や，学校としての説明不足などの課題が残りました。子供たちへのケアも含めて，この点については，十分に検証を行い，今後の行事や次年度の計画に生かしてまいります。

② 「２学期授業参観」について

(ア) 学年・学級の様子について

- 学習の様子について，多くの保護者の方からご理解をいただきました。
- 授業の進め方，時間配分，グループ活動の方法など，授業の様子についてご意見をいただきました。子供たちが楽しい，分かる授業となるよう，授業力の向上に努めてまいります。

(イ) 学校でのお子さんの様子について

- 子供たちが調べたことを発表する活動が多かったこともあり，「堂々と発表できるようになってほしい」，「自信がなさそうで心配になった」などの声も，いくつかありました。

授業に限らず，学校生活の中での様々な機会をとおして，子供たちが活躍する場を作り自信を持って自分の意見を伝えられるように支援していきたいと思います。

(ウ) 学級懇談について（中学部のみ）

- 受験についての意見交換や情報共有，保護者同士の懇親の場として有効であったとの声が多数ありました。

(エ) 実施時期について

- 時期につきましては，様々なご意見があることかと思います。本校では，長期休業（夏休み，冬休み，春休み）を挟んでの転出入が多くなるため，各学期の早い時期に参観を実施することで，学校の様子をご理解いただけるようにしております。

(オ) その他

- ICT の活用した授業づくりについて，多くの保護者の方に，肯定的に受け止めていただきました。必要な技能の習得と学習効果を考慮しながら，今後も活用を進めてまいります。
- 水筒を忘れた場合の対応については，学校で紙コップを準備し，適切に水分補給が出来るように対応してまいります。また，教員から子供たちへの声掛けや健康観察を徹底するように努め，体調不良等に気を配ってまいります。

安全の確保と教育活動

夏休み明けから，児童生徒の通学やスクールバスについて，様々な出来事があり，ご心配をおかけしているところです。引き渡しや送迎など，保護者の皆様にご協力いただきましたこと，改めて感謝申し上げます。

また，先日は，広州日本商工会からも「広州日本人学校登下校時における安全確保のためのご協力依頼」のメールが発出され，多くに皆様のご協力により，落ち着いた学校生活が送れているところです。

今週，正門から校庭にかけて，目隠しネットを設置いたしました。これまで，路上から子供たちの活動の様子がはっきりと見ていましたが，これにより道路からの目を遮るとともに，グランドにいる子供たちも外目を気にせず，活動に集中できるようになりました。

子供たちにとって，学校は安心で安全な場所であるために，これからも様々な工夫を重ねながら教育活動を実施してまいりたいと思います。

～　学校長日記　～

病院に併設された学校に勤めているとき「ランドセルの力」という言葉と出会いました。そこでは学校は，子供たちの生きる希望であり，活力であり，孤独や不安から開放される場所で，学校に通うこと（病室に教師や友達が来ること）は，「生きる力」を生むことでした。それが「ランドセルの力」という言葉で表現されていました。

さて，学校が子供たちの力となるためには，安全安心が日常でなくてはなりません。本校ばかりでなく，中国国内の日本人学校が，1 日も早く日常を取り戻し，子供たちの力となれるように，私たち教職員一同，努力していかなくてはいけないとの思いを新たにしたこの 1 か月です。